[話題提供]

日本国内の竹笹の遺構記録から竹の導入時期は紐解ける？

BIG東京&第21回竹サロン2020年2月24日

Zoom竹ミーティング

京都大学大学院農学研究科

小林慧人

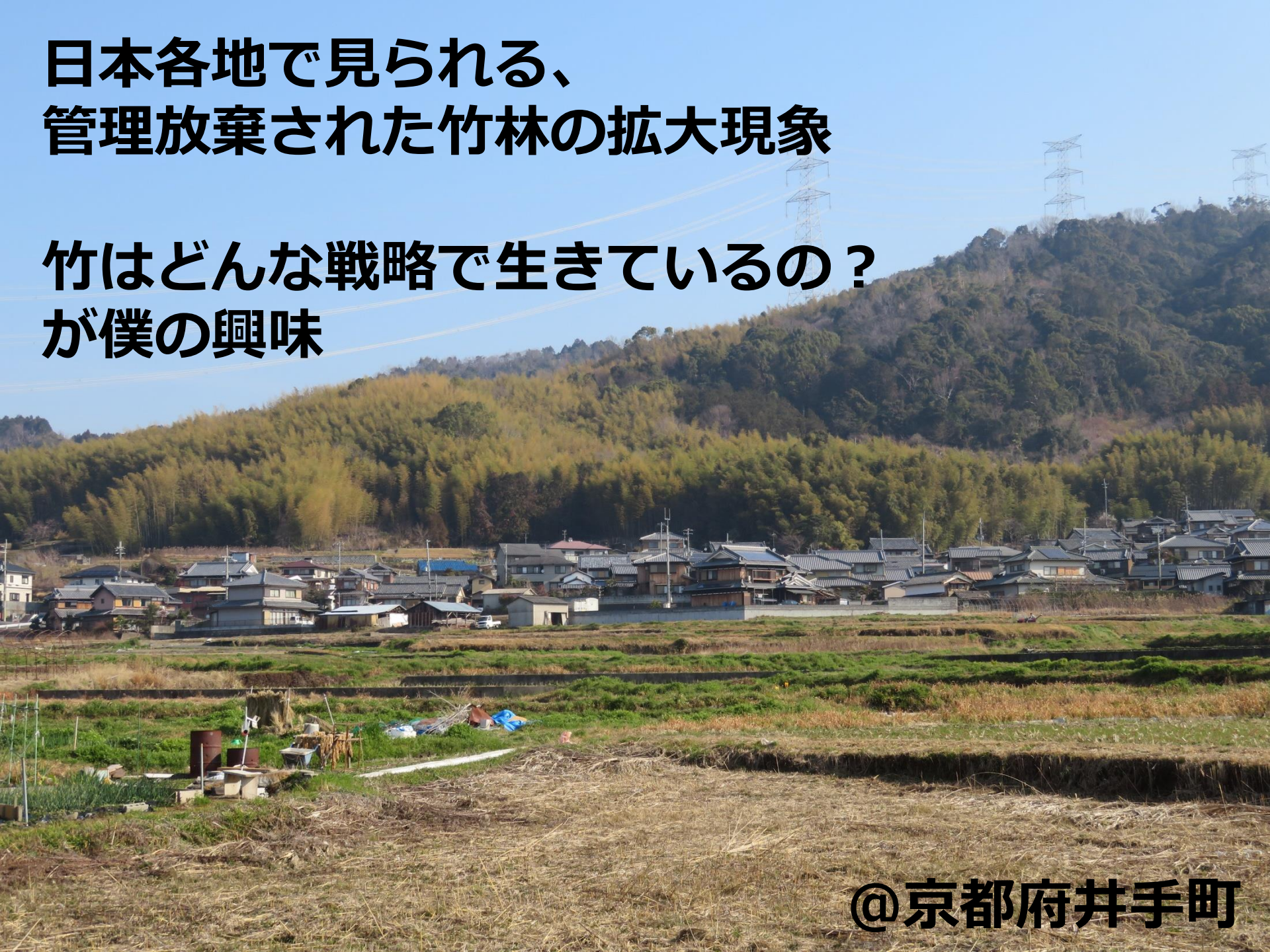
話の内容

１、僕の竹研究・活動の紹介
　　タケの生態・竹蛇籠の製作設置

２、研究を進める上で気になる竹の導入時期
　　「竹笹の遺構収集は有効か！？」

チャット機能にて、随時コメント待ってます！

- 学内での研究
  タケの生態を理解したい
  フィールドワーク好き
- 学外活動
  伝統的河川工法の竹蛇籠水制・聖牛製作設置プロジェクト 2015年～
  @京都府木津川に参戦


日本各地で見られる、
管理放棄された竹林の拡大現象
竹はどんな戦略で生きているの？
が僕の興味
@京都府井手町

量的・質的に重要な地下部へアクセス

@兵庫県淡路市

地上部と地下部のつながりを追跡する

@京都市伏見区

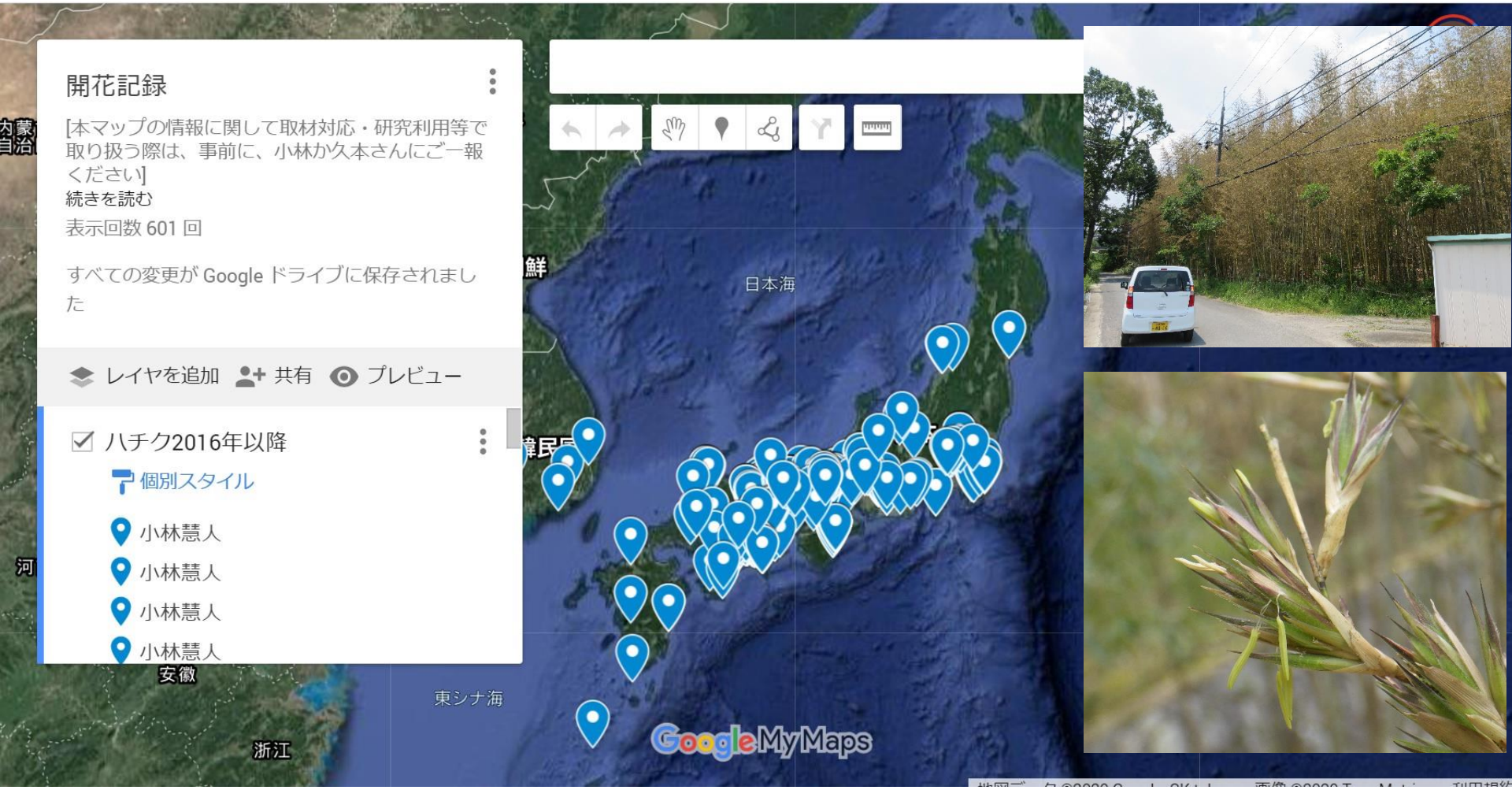
「珍しい」とされるタケ類の開花現象

「不思議・不可解」で片付けられがちですが、
調査事例を増やし知見を整理し
「納得・理解」を目指すことが重要

タケは生涯の最期
どうやって次世代につないでいるの？
が僕の興味
ハチクの一斉開花2019年5月　@滋賀県大津市

各種の繁殖生態を各地で調査中
例：モウソウチク実生　2019年@高知県土佐市

ハチクを中心に各地へタケの開花を求める



情報待ってます！

竹林景観ネットワークHP
「タケ類の開花情報」マップにて蓄積中

本日

京都府西京区
大原野地区にて

ハチクの開花

竹に関わっていて、年々抱く疑問

各地で見られている大型のタケ
もともと日本にいたの？
いつどこから連れてこられたの？

諸説はあるが。。

大型のタケ
モウソウチク、マダケ、ハチク、ホテイチク

その他
ヤダケ、オカメザサ　etc

解決に向けたアプローチ

・詳しい人、本
・お寺に眠る古文書
・古い絵図
・遺構
・各地域のタケを採取しDNA分析

竹は人々の生活に近い存在
→**遺構**にヒントを求めてみたい

遺構：遺跡を構成する施設のこと

例：
集落などの場合：建物跡・住居跡・井戸・溝など
古墳の場合　　：石室や濠など

引用：橿原考古学研究所作成資料
http://www.kashikoken.jp/museum/school/web_omoshiro/nyumon/nyumon1-2-3-6.pdf

例：
江戸時代の上水施設：竹製（たぶんマダケ）
2019年1月
滋賀県大津市埋蔵文化財センターにて見学

大津百町

生活用水、江戸期の水道管を確認　不純物除去など職人技　／滋賀

会員限定有料記事　毎日新聞　2018年8月20日　地方版

滋賀県　カルチャー　芸術・文化

江戸時代の竹製の水道管と木製の継ぎ手＝大津市京町３のＮＨＫ新大津放送会館建設予定地で、県文化財保護協会提供

ＮＨＫの新しい大津放送会館の建設予定地（大津市京町３）から、江戸時代の上水道施設の遺構の一部が良好な状態で見つかった。水道管の精巧な継ぎ手など随所に職人技が確認でき、宿場町として栄えた「大津百町」に生活用水を供給していたとみられる。【北出昭】

調査地は県庁北側にあった県有施設「旧滋賀会館」の敷地約４０００平方メートルのうち東側部分約４００平方メートル。県文化財保護協会が昨年５月から約２カ月間調査した結果、節を抜いた竹製の管や口径の異なる管をつなぐ木製の継ぎ手などが出土した。調査地の北側を通っていた東海道沿いには大津百町があ…

「これをたたき台にしてください」という素晴らしいレポートが最近でた

〈研究ノート〉

遺跡出土タケ・ササをめぐる諸問題

松　井　和　幸

はじめに

昭和40年代以降であろうか、プラスチックの製品が日常使われるようになってから、急速に日本人の日常生活から竹製品は姿を消していった。タケやササを使った製品は、今や高価な工芸品や反対に安価な東南アジアや中国製の雑貨類に一部見られる程度である。

筍としての食用意外に以前は、笊（ざる）や籠（かご）、箕（み）、すのこ、箆（へら）、水筒、箸などの容器や物差し、下駄、笠、物干しざお、釣りざお、スキー板、凧（たこ）や水鉄砲などの玩具、竹垣、護岸用の蛇籠、桶のタガ、竹網、そして茅葺屋根材、土壁のコマイなどの住居用材、あるいは弓、弓矢、竹槍などの武器として、私たちの衣食住のありとあらゆる場所に用いられた最も身近な植物性の材料の一つであり、日常生活には欠かすことのできない素材の一つであった。

ところが、これだけ身近な存在でありながらタケ･ササは考古学の対象として関心が向けられることはほとんどなかった。私の経験からしても、発掘調査時にはタケと確認出来る資料は時々出土したが、遺物として取り上げる際に破損、消滅してしまう例も多く、資料として報告されなかった場合も多々あったように記憶している。

小稿は、日本列島内の遺跡から出土したタケ・ササ資料を抽出し、タケ・ササ資料の再整理をしたものである。その結果、タケ・ササの日本列島への渡来の時期などもある程度推察できる可能性も生じてきた。

1　タケ・ササの種類

松井(2018) 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告 B類15

松井(2018)のまとめ

200件弱もの遺構資料をとりまとめ

ハチク　　：弥生時代頃～
マダケ　　：古代以降～
モウソウチク：中世後半頃～

ではないか？　との見方

今後の課題・展望(私見)
1、タケ種/年代の再検討の必要性
2、未収集の資料の収集
3、新たな遺構出土への期待
4、興味を持ってる人がいることを認知してもらう

とりあえず集める体制をつくってみた

タケ・ササ遺構@日本.xlsx　Google スプレッドシートで開く

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	ID	遺跡名	所在地	時代	種類	引用文献	元文献	メモ
2	1	キウス5遺跡A-2地区	北海道千歳市	縄文晩期	イネ科タケ亜科	0	1	
3	2	からむし岱Ⅰ遺跡	秋田県鷹巣町	縄文後半	タケ亜科根茎	0	2	
4	3	荒屋敷遺跡	福島県三島町	縄文晩期~弥生初期	タケ龍	0	3	
5	4	寺野東遺跡V	栃木県小山市	縄文後期~晩期	イネ科タケ亜科	0	4	
6	5	砂押遺跡	群馬県前橋市	縄文早期	タケ亜科	0	5	
7	6	下宅部遺跡	東京都東村山市	縄文後期~晩期	タケ籍	0	3	
8	7	清水天王山遺跡	静岡県静岡市清水区	縄文後期	網代	0	6	
9	7	前原遺跡	沖縄県宜野座村	縄文時代後期	タケ旅	0	7	
10	8	中高瀬観音山遺跡	群馬県富岡市	弥生時代後期	タケササ	0	8	
11	9	小出川遺跡郡	神奈川県茅ケ崎市	弥生後期	網代	0	9	
12	10	富士見一丁目遺跡	山梨県甲府市	弥生~古墳初	イネ科タケ亜科	0	10	
13	11	松原遺跡	長野県長野市	弥生中期	タケ亜科	0	11	
14	12	後平遺跡	岐阜県富加町	弥生末~古墳初	イネ科タケ亜科	0	12	
15	13	深橋前遺跡	岐阜県関市	弥生末~古墳初	タケ亜科	0	13	
16	14	三沢西原遺跡	静岡県菊川市	弥生後期~古墳前半	タケ炭化材	0	14	
17	15	角江遺跡	静岡県浜松市	弥生中期	矢柄	0	14	
18	16	朝日遺跡	愛知県清洲町	弥生中期	タケ龍	0	3	
19	17	松河戸遺跡	愛知県春日井市	弥生前期	タケ龍	0	3	
20	18	石田遺跡	滋賀県能登川町	弥生後期	タケ亜科	0	15	
21	19	山賀遺跡	大阪府東大阪市	弥生後期	編み物(タケ?)	0	16	
22	20	恩智遺跡	大阪府八尾市	弥生中期	タケ製策	0	17	
23	21	唐古遺跡	奈良県田原本町	弥生前期	タケ龍	0	18	
24	22	唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	弥生中期	用途不明タケ製品	0	19	
25	23	窪木遺跡	岡山県総社市	弥生後期	タケ	0	20	
26	24	上井遺跡	愛媛県東宇和郡	弥生時代後期	タケ亜科(メダケ節)	0	21	
27	25	樽味高木遺跡3次	愛媛県松山市	弥生後期~古墳中期	タケ亜科メダケ節	0	22	

200件程度

遺跡名、所在地、時代、種類、記載された文献を記録

僕の個人HPで公開中　　やりませんか？

話のまとめ：

タケの生態研究を進める上で
国内の大型タケの歴史が気になって仕方ない
↓
遺構資料からヒントをもらう方法は有効だろう

皆さんはどう思われますか？

連絡は
keito.Kobayashi3(@)gmail.com　まで
*()は除いてください

2020年4月24日　BIG&竹サロン合同

若手竹研究会について

若手竹研究会の活動

発足：2018年7月

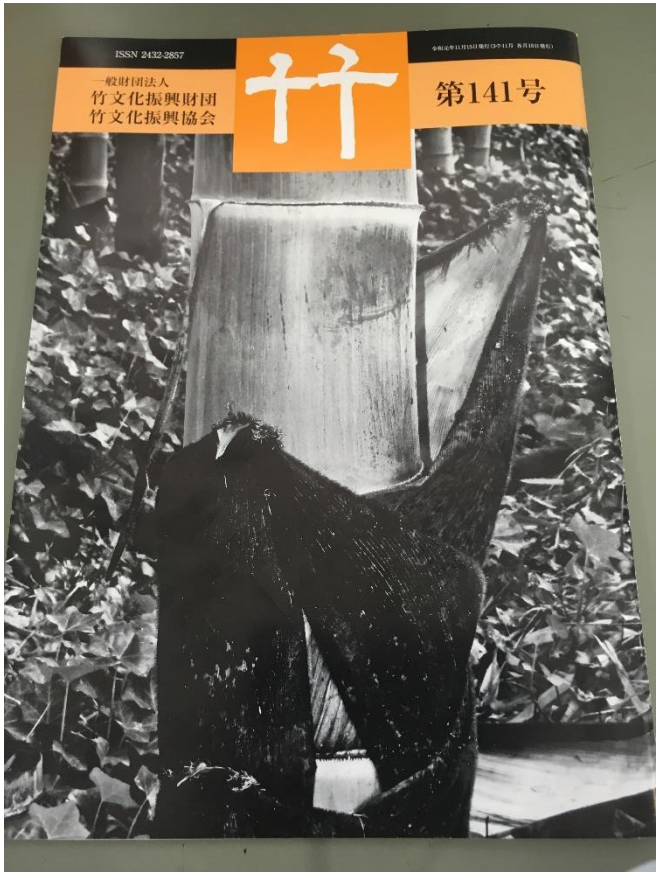
目的：
若者が中心で、竹に興味関心ある人が集まり語る場を！

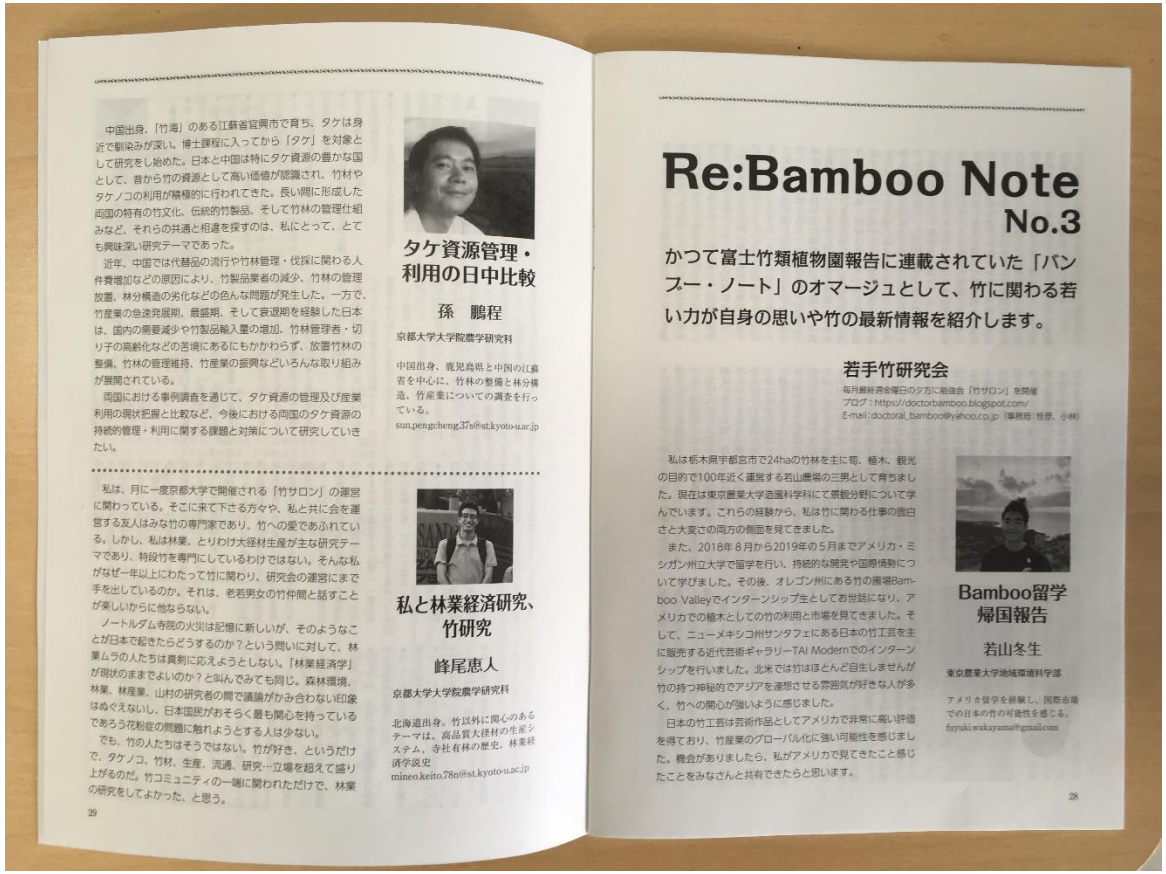
主な活動内容：
1. 竹サロンの運営 （月1回/2018.8～）
2. 会誌「竹」 のコラム連載（年3回/2019.3～）
3. 日本国内の竹文献の収集（2018～）

竹サロン　発表・交流の場

毎月月末に1回、だいたい京都で開催
Twitter、 Facebook,
ブログで告知

会誌「竹」　発信の場





中国出身、「竹海」のある江蘇省宜興市で育ち、タケは身近で馴染みが深い。博士課程に入ってから「タケ」を対象として研究をし始めた。日本と中国は特にタケ資源の豊かな国として、昔から竹の資源として高い価値が認識され、竹材やタケノコの利用が積極的に行われてきた。長い間に形成した両国の特有の竹文化、伝統的竹製品、そして竹林の管理仕組みなど、それらの共通と相違を探すのは、私にとって、とても興味深い研究テーマであった。

近年、中国では代替品の流行や竹林管理・伐採に関わる人件費増加などの原因により、竹製品業者の減少、竹林の管理放置、林分構造の劣化などの色んな問題が発生した。一方で、竹産業の急速発展期、最盛期、そして衰退期を経験した日本は、国内の需要減少や竹製品輸入量の増加、竹林管理者・切り子の高齢化などの苦境にあるにもかかわらず、放置竹林の整備、竹林の管理維持、竹産業の振興などいろんな取り組みが展開されている。

両国における事例調査を通じて、タケ資源の管理及び産業利用の現状把握と比較など、今後における両国のタケ資源の持続的管理・利用に関する課題と対策について研究していきたい。

タケ資源管理・利用の日中比較

孫　鵬程

京都大学大学院農学研究科

中国出身、鹿児島県と中国の江蘇省を中心に、竹林の整備と林分構造、竹産業についての調査を行っている。
sun.pengcheng.37s@st.kyoto-u.ac.jp

私は、月に一度京都大学で開催される「竹サロン」の運営に関わっている。そこに来て下さる方々や、私と共に会を運営する友人はみな竹の専門家であり、竹への愛であふれている。しかし、私は林業、とりわけ大径材生産が主な研究テーマであり、特段竹を専門にしているわけではない。そんな私がなぜ一年以上にわたって竹に関わり、研究会の運営にまで手を出しているのか。それは、老若男女の竹仲間と話すことが楽しいからに他ならない。

ノートルダム寺院の火災は記憶に新しいが、そのようなことが日本で起きたらどうするのか？という問いに対して、林業ムラの人たちは真剣に応えようとしない。「林業経済学」が現状のままでよいのか？と叫んでみても同じ。森林環境、林業、林産業、山村の研究者の間で議論がかみ合わない印象はぬぐえないし、日本国民がおそらく最も関心を持っているであろう花粉症の問題に触れようとする人は少ない。

でも、竹の人たちはそうではない。竹が好き、というだけで、タケノコ、竹材、生産、流通、研究…立場を超えて盛り上がるのだ。竹コミュニティの一端に関われただけで、林業の研究をしてよかった、と思う。

私と林業経済研究、竹研究

峰尾恵人

京都大学大学院農学研究科

北海道出身。竹以外に関心のあるテーマは、高品質大径材の生産システム、寺社有林の歴史、林業経済学説史
mineo.keito.78n@st.kyoto-u.ac.jp

29

Re:Bamboo Note
No.3

かつて富士竹類植物園報告に連載されていた「バンブー・ノート」のオマージュとして、竹に関わる若い力が自身の思いや竹の最新情報を紹介します。

若手竹研究会
毎月最終月曜日の夕方に勉強会「竹サロン」を開催
ブログ：https://doctorbamboo.blogspot.com/
E-mail：doctoral_bamboo@yahoo.co.jp（事務局：笹原、小林）

私は栃木県宇都宮市で24haの竹林を主に筍、植木、観光の目的で100年近く運営する若山農場の三男として育ちました。現在は東京農業大学造園科学科にて景観分野について学んでいます。これらの経験から、私は竹に関わる仕事の面白さと大変さの両方の側面を見てきました。

また、2018年8月から2019年の5月までアメリカ・ミシガン州立大学で留学を行い、持続的な開発や国際情勢について学びました。その後、オレゴン州にある竹の園場Bamboo Valleyでインターンシップ生としてお世話になり、アメリカでの植木としての竹の利用と市場を見てきました。そして、ニューメキシコ州サンタフェにある日本の竹工芸を主に販売する近代芸術ギャラリーTAI Modernでのインターンシップを行いました。北米では竹はほとんど目生しませんが竹の持つ神秘的でアジアを連想させる雰囲気が好きな人が多く、竹への関心が強いように感じました。

日本の竹工芸は芸術作品としてアメリカで非常に高い評価を得ており、竹産業のグローバル化に強い可能性を感じました。機会がありましたら、私がアメリカで見てきたこと感じたことをみなさんと共有できたらと思います。

Bamboo留学
帰国報告

若山冬生

東京農業大学地域環境科学部

アメリカ留学を経験し、国際市場での日本の竹の可能性を感じる。
fuyuki.wakayama@gmail.com

28

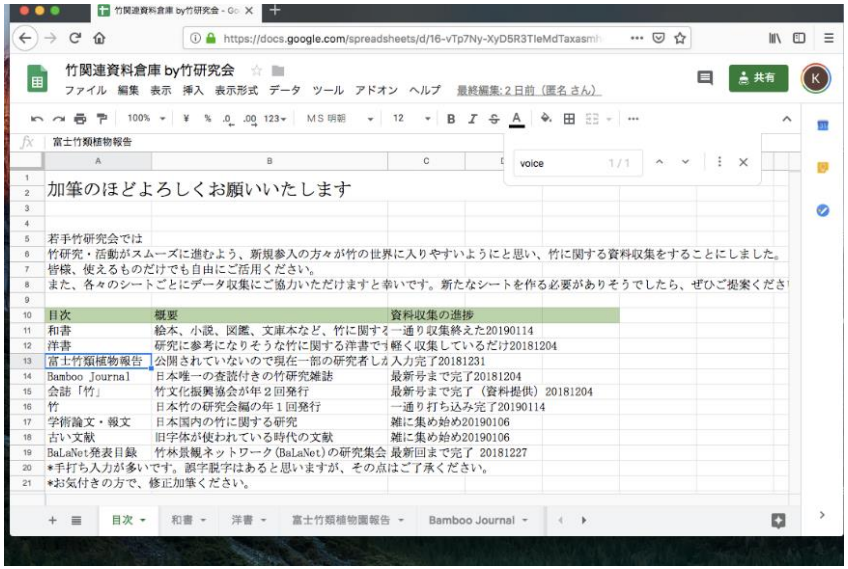
Re: Bamboo Note というタイトルで連載
毎回、3人の若手が意気込みや思いを紹介！

日本国内の竹文献の収集

目的：
竹に関する資料を１箇所に集める！
竹初学者が竹の世界に入りやすくする！

Google driveにて共有
スプレッドシートの形式
誰でも加筆できる形

やりませんか？？



若手竹研究会　まとめ

竹に関わる学生が中心に、
竹に関わる
気持ちの若い皆さんに
支えてもらいながら

一緒に盛り上がって
活動中！